

ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 カバート・ブイアイピーイーエックスジェイ	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.470	△RG 0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：カバート・ブイアイピーイーエックスジェイ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：

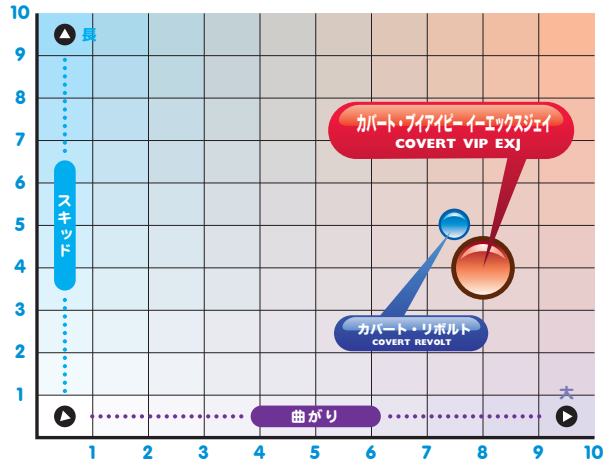
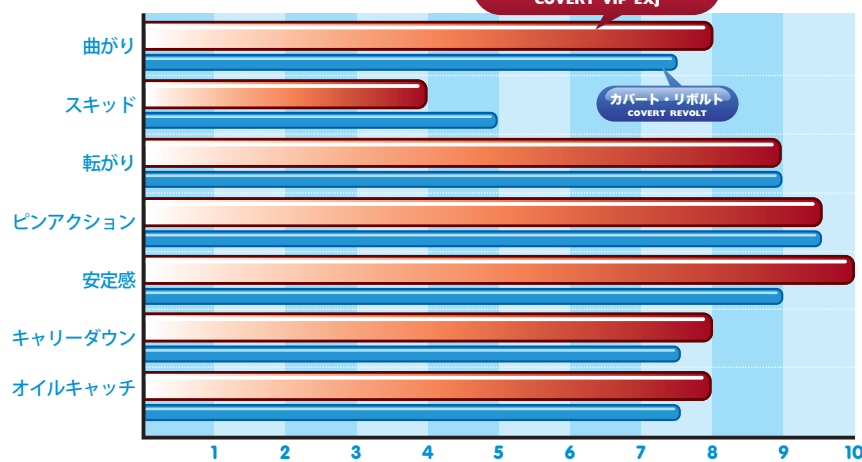
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

圧倒的な支持と実績を残した“伝説的ベンチマークボール”であるCOVERT REVOLT。その完成度は、単なるヒット作の枠を超え、多くのボウラーにとって「基準」として機能してきた存在と言えるでしょう。今回MOTIVは、その名機をEXJモデルとして復活させるにあたり、復刻ではなく“現代仕様への最適化”という明確な意図を持たせてきました。

最大の変更点は、従来のTurmoil HFS Reactiveカバーから、近年のMOTIVラインナップにおいても評価の高いLeverage HFS Reactiveカバーに変えたところで、オイルへの適応力とトラクション性能に優れつつも、過剰な噛みすぎを抑えた“扱いやすい強さ”を持つ点が特徴と言えます。

従来のCOVERT REVOLTが持っていたミッドレーンでの安定したキャッチ性能と、ピンヒットまで緩むことのない継続的なフックはそのままに、今回のモデルではより現代のコンディションにマッチした“読みやすさ”と“持続性の質”が向上している印象です。特に近年のレーン傾向で顕著なキャリーダウン環境下においても、Leverage HFSカバーは軸移動をスムーズに促しながら、過度にエネルギーを消費することなくポケットまで運ぶ軌道を見せます。

コアにはお馴染みのVanquish Coreを継承。転がり感の強さとトラックフレアの安定供給は健在であり、レーン中盤での“読みの明確さ”は依然としてこのボールの大きな武器です。実際の投球においては、「まずはこのボールから」というベンチマーク的立ち位置は不変でありながら、その適応幅はむしろ拡張されています。オイル量の把握能力は依然として高く、ここから上位モデルへ繋ぐ判断材料としての信頼性も非常に高いと言えます。

今回のEXJ版COVERT REVOLTは、「あの完成度を現代に再提示する」という意味合いを持ったモデルと言えるでしょう。

特記事項

過去にその性能を体感したボウラーにとっては“再会”であり、未体験のボウラーにとっては“基準との出会い”となる存在です。ベンチマークとは何か——その答えを、改めて提示してくれる一球と言えるでしょう。